

エリア ウェッブ

峡東教育事務所
 地域教育推進担当
 TEL0553-20-2737
 FAX0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由どうぞ。

子育てに手遅れはない！！

8月5日に、いちのみや桃の里ふれあい文化館で、幼・保・小の連携を考える子育て講演会が開催されました。講師に坂本光男先生をお招きしての、『教育とは希望を育てること ― 親と教師 今、何をしたらよいか』という内容でのお話でした。

当日は、各種会議等たくさんありましたが、多数の参加を得る中で、充実した2時間半の講演会でした。先生の今までの経験を生かしての具体的な多くの事例を交えながらのお話や、ゲームを取り入れての参加型講演に、「時間を忘れて聞き入った」「よく理解できた」「すぐに実践できる」等、とても好評でした。

以下、講演内容を紹介します。

坂本先生は、佐世保や新宿、三条市の事件等、いのちの実感の無い事件の多いことを取り上げ、『いのち』を大切に育てる子どもに育てることをテーマに話されました。

希望や自信を持たせる対話は？

『いのち』を大切に育てる子どもに育てるには、『希望』と『自信』を持たせること、先ず、『対話』をすることが必要ということでした。希望の持てるよう楽しく対話をするのできる場面として、右のような場面を設定し、各場面毎に詳しく、具体的に『希望』と『自信』の持てる対話について語ってくれました。

ご飯をいっぱい食べたとき
 お風呂に早く入れないとき
 遊んでよごれて帰ったとき
 テレビ・ゲームをなかなかやめないとき
 用事を言っても返事をしないとき
 テストの結果がよくなかったとき
 勉強をなかなか始めないとき
 きょうだいげんかをしたとき
 誕生日にぜひやってあげたいこと
 誕生日にぜひ言ってあげたいこと

特に、
では、プレゼントがいくら高いかという金銭的価値観で祝うのではなく、「手紙」を渡すとか、柱に成長の記録（柱の傷）をとりながら、「元気に育った」「前より成長した」「更に大きく成長しよう」と話すことの大事さ、また、父親として「おまえを育てて良かった」母親として「あなたを産んで良かった」とか、「あなたがいるからがんばれる」という言葉の大切さを話され、それが、子どもに『希望』や『自信』を持たせることにつながるということでした。

では、「おまえを育てて良かった」母親として「あなたを産んで良かった」とか、「あなたがいるからがんばれる」という言葉の大切さを話され、それが、子どもに『希望』や『自信』を持たせることにつながるということでした。



では、「ご飯をいっぱい食べたね。元気になるよ、これからがんばろう」と、
では、「早く入ると気分が良いよ」と、
では、「元気に遊んできたね」、もし、あまり汚すようだったら先の言葉を言った後「これからは少し注意しよう」と、
では、約束を決め、何回言っても聞かないとき、次のように言って電源を切る。「約束を守るために、あなたを応援してあげよう」と、
では、「どうしたの?」と相手の事情を聞き、「一緒にやってみよう」「一緒に考えてみよう



う」と、では、可能性があると励まし「まちがったところを繰り返し覚えなさい」と、では、「今日の予定は」と言い、分からないようなら「一緒に考えよう」と、では、「暴力はいけない」「話し合いで解決しなさい」というような話を具体的に、逆の対応によって子どもたちはどんな価値観を持って育っていくか、『希望』や『自信』も持てない子に育っていく危険性も含めて話されました。

また、『自信』を持つ子どもに育てるために、父親が膝の上に乗せること、母親が抱っこすることの大事さも話されました。

さらに、反抗期の子どもの指導を考えたとき、その時期を、反抗期ととらえるのか、自立していくために反抗している（親や周りの人から考えると反抗）自立期ととらえるのかによって、親の対応も異なり、親子の関係がより良いものになっていくことも話されました。親（大人）が変われば、子どもも変わってきます。

遊びの中で学ぶこと

『対話』の次に大事になるのが、『活動（遊び）』です。今、子ども集団が存在するのは学校しかないということから、集団づくりの実践が必要ではということも話されました。「集団が変われば一人ひとりが変わる・一人ひとりが変われば集団が変わる」という原則からです。子どもが自立していく過程では、活動（遊び）がとても大事であり、その中で、形式的平等ではなく、本質的平等の眼が育ち、自分も大事にするが他人も大事にすることが培われていくということです。集団遊びの評価も、勝敗ではなく「楽しくできたね」「仲良くできたね」「がんばれたね」と、みんなで活動したことが有意義なのだということです。特に勝敗にこだわる子どもたちには、この評価が必要なのです。こういう中で参加者が、実際に、集団じゃんけん・どじょうによるよろ・指相撲等、ゲームをしながら楽しく、実感しながら学びました。

また、子どもたちが「どのようなことに価値を見いだしているか」ということで、次のような話がありました。「お金」と「勉強」と「友だち」と「ゆめ」と「遊び」の中から、一つだけ切るとしたら、何を切るかということ子どもたちに聞き、そして、理由を聞いたそうです。理由を言うことによって「生きる力」をつけることにつながるということです。いろんな思いで選んでいくのですが、さて、みなさんは何を選びますか？ ベトナムの子は、ほとんどが「遊び」を選んだそうです。「みんなで働くことが楽しいので遊びはなくても良い」という理由だったそうです。「友だち」と答えた子は、いじめられたつらい思いから選び、「お金」と答えた子は、父親が借金のため蒸発し、一緒に暮らせないというつらい思いからでした。高校生にも、「大人に望むことは？」ということ聞いたところ、「平和な世の中」と答えたそうです。子どもたちに、夢を持たせるのは、やはり大人の務めなのです。

仲間の良さ、自分の良さ発見

そして、次にくるのが『共同』ということです。共同して活動を行うことによって、仲間の良いところや自分の良いところを発見することにつながる。また、問題が起きたとき自分たちで問題を解決することによって、問題を解決する道筋を知り、問題を解決する力（自己解決力）を育てることもつながり、それが、『希望』や『自信』を持たせることになるのだということです。学級集団づくりの実践の事例や、よみきかせの実践の事例が話されました。どんな点を評価していくかということで、右の視点を出してくれました。この

大きい声が出せる
表情がゆたかになる
動きやしぐさがはっきりする
自慢ができる
みんなの方を見て話せる
友だちがふえてきた
遊びの種類がひろがる
役割が果たせる
約束が実行できる
「やろう」「よそう」と言える

視点で大人が評価していくことによって、子どもたち同士の評価の視点もこのようになっていくのです。

『いのち』の実感を持たせよう

『いのち』を大切にする子に育てるには、『いのち』の実感を持たせることが大切であることが話され、次のような場を考えた実践が語られました。

生き物を死ぬまで面倒を見て飼うこと[死んだときの対応(線香・墓等)の仕方]
身近な人の葬儀への参加[死ぬということを理解する場に]

事件が起きたとき、人間の問題として語る[被害者の親、加害者の親の生き方、
また、いのちは自分だけのものではない]

以上のように、『対話』『活動』『共同』が大切であることの後、大人(親や教師)の大事にしたい言葉は何かと、次の()に入る言葉をみんなで考えました。

教育(子育て)とは()を育てること
教師(親)の愛とは、その子を()こと
「ほめる」と「励ます」とはちがう。励ますとは()
を示してやること
人間は、ひとりだけでは()になれない
子育て・教育に()はない

* ()の中に入る言葉 希望 みすてない 可能性 人間 手遅れ

以上、講演の内容を簡単に書きましたが、『大人が変われば、子どもも変わる』と
考え、また、必要だと気づいたところから始める『子育てに手遅れはない』という
ことを考え、地域で、学校で、家庭で実践できたらと思います。



参加者の感想から(一部紹介)

楽しい講演会でした。自分自身に自信、希望が持てたように思います。

子どもの姿が目に見えてくるような事例などがたくさん盛り込まれていて、心
に染み込んでくるどころがたくさんありました。どうもありがとうございました。

父と娘の関係について、先生の話聞いて、私の父の関係を見直しました。叱ら
れた記憶しかなかったので、あまり話をしていません。できることなら仲良くなり
たいとは思っていますが、諦めていた部分も多かったです。でも、まだ遅くないの
かな...?と希望が持てました!!

子どもとの対応の仕方を丁寧に話していただき、分かりやすかったです。幅広い
年齢への関わり、いくつになっても大切なこと、必要なこと、改めて気付かされま
した。集団生活のスタートを切る場を任されているので、お話を心にとめて励みた
いと思いました。

教師としても、母親としても、子どもへの接し方は、「前向きに温かく」という
点が同じだと思いました。勉強になりました。

実体験に基づいたお話や、いのちの大切さについて詳しく話していただきました。
笑いを交えた講演会でした。また、クラスづくりについてのワンポイント的なお話
もためになり、今後、生かしていきたいと思いました。

女・男・女の3人の子どもを育てていますが、真ん中(男)に手を焼いています。
今日は、何か少しでも学んで、生かせることがないかと聞きに来ました。涙したり、
笑ったり、考えたりと楽しく聞くことができ、家に帰って実行したいと思いました。

「いのち」を大事にするということが、毎日の生活の中で具体的に何をしたらよ
いのか分かり、私自身にも希望が見えました。子どもの思わしくない状況に自信
をなくしていたのですが、まずは、丈夫で元気に育てた私に自信を持ち、子どもの
可能性に希望が持てました。ありがとうございました。

～ (峡東地区) 中学生一日高校体験入学 ～

峡東地区の高校5校(石和高校・山梨高校・塩山高校・日川高校・山梨園芸高校)で、中学3年生と保護者・教師を対象とした、一日高校体験入学が、8月15日から31日までの間に開催されました。

どの高校も学校の雰囲気や授業内容等を知ろうと、多くの中学3年生であふれていました。説明会では、各高校とも自校の特色を中心に説明し、学校の様子をよく理解しながら自分に適した高校を選択できるように、と話していました。

さらに、どの高校も内容がよく理解できるようにと、全体説明会・学校紹介の前後に、高校の先生による模擬授業・実験実習の体験学習を行っていました。参加した生徒は、来年入学しているかもしれない高校の体験学習を真剣にまた楽しそうに受け、工夫された様々な授業は中学生に好評を得ていました。

他に、高校在学の話や部活動の見学会を開催したり、保護者・中学校の教師対象の説明会や懇談会を別に設けたりと、高校側も工夫している様子が伺えました。特に高校在学の先輩による体験発表は、受験校を決めるため大いに参考になったと思います。

自分の将来を見通して進路を決めることは、重要であるといわれています。一方、高校入学後中途退学していく生徒が毎年大勢いることも、問題になっています。ですから、子どもたちに見通しを持たせるうえで、高校体験入学は非常に重要な事業だといふことができます。(注 中途退学の高校生は、平成15年度では全国 81799人 2.2%、山梨県 558人 1.9%)



中学生も高校生も自分の適性を知り、慎重に進路を決めることは重要であり、これからも「体験入学会(オープンキャンパス)」が、多方面で行われることが望まれます。

すがすがしい朝

夏休みも終わり、2学期が始まりました。通勤途中に、元気に登校する子どもたちの姿を眼にするようになりました。

9月1日の朝のことです。交差点の赤信号で車を停めていた私の横で、登校班の班長でしょうか、旗を持って何人かの子どもたちを誘導していました。やがて、信号が青になると班長さんは、列の前に行ったり後ろに行ったりして、子どもたち全員を無事に渡らせました。左折しようといっていた私は、その子どもたちが通過するのを待っていました。すると、全員無事に渡らせた班長さんが、笑顔でこちらを向き、大きな声で「ありがとうございました。」と、私の方を向いて頭を下げてくださいました。



台風一過の良い天気と同じように、なにかすごくすがすがしく感じ、今日1日仕事もがんばれる気がしました。

「声かけ、あいさつ運動」実施中